

2026 年 2 月 13 日

各 位

東京都中野区本町一丁目 32 番 2 号
会 社 名 アクセルマーク株式会社
代表者名 代表取締役社長 松川 裕史
(コード番号: 3624 東証グロース)
問 合 せ 先 経営管理部ゼネラルマネージャー
若海 正弥
(TEL 03-5354-3351)

(訂正)「2026 年 9 月期第 1 四半期決算説明会資料」の一部訂正に関するお知らせ

2026 年 2 月 12 日に公表しました「2026 年 9 月期第 1 四半期決算説明会資料」の記載内容の一部に訂正を要する箇所がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、本訂正による「2026 年 9 月期第 1 四半期決算短信」の数値および業績予想等への影響はございません。

記

1. 訂正の理由

「2026 年 9 月期第 1 四半期決算説明会資料」の記載に誤りがあったため、訂正するものです。

2. 訂正箇所および内容

「2026 年 9 月期 1Q サマリー」	10 ページ
「損益計算書四半期推移」	12 ページ
「貸借対照表概要」	13 ページ

なお、該当するページ（訂正前、訂正後）を添付いたします。

訂正後ページでは訂正箇所に赤枠を付して表示しております。

また、訂正後の開示資料につきましては、当社ホームページに掲載いたします。

以上

<本リリースに関するお問い合わせ先>

アクセルマーク株式会社 経営管理部

メール: ir@axelmark.co.jp

2026年9月期 1Qサマリー

売上高

321 百万円

(前四半期: 214百万円)

営業
利益

▲154 百万円

(前四半期: ▲185百万円)

当期
純利益

▲196 百万円

(前四半期: ▲264百万円)

EBITDA

▲152 百万円

(前四半期: ▲181百万円)

□ 概況

- ・成長領域であるビューティー & ウェルネス事業において、営業黒字を継続する企業の連結子会社化に向けた手続きを開始
- ・トレカ事業において、事業の旗艦店となる『cardéria池袋店』の在庫に連動したECサイトをオープン
- ・トータルビューティーケアブランド『≡4.7(ニアリーフォーセブン)』をローンチし、自社化粧品の販売を開始
- ・当社保有方針に基づいた暗号資産トレジャリー運用の開始を決定
- ・資金調達を実行し、財務基盤の安定化および成長戦略を遂行

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費+のれん償却費

2026年9月期 1Qサマリー

売上高

321 百万円

(前四半期: 214百万円)

営業
利益

▲154 百万円

(前四半期: ▲185百万円)

当期
純利益

▲196 百万円

(前四半期: ▲264百万円)

EBITDA

▲149 百万円

(前四半期: ▲181百万円)

□ 概況

- ・成長領域であるビューティー & ウェルネス事業において、営業黒字を継続する企業の連結子会社化に向けた手続きを開始
- ・トレカ事業において、事業の旗艦店となる『cardéria池袋店』の在庫に連動したECサイトをオープン
- ・トータルビューティーケアブランド『≡4.7(ニアリーフォーセブン)』をローンチし、自社化粧品の販売を開始
- ・当社保有方針に基づいた暗号資産トレジャリー運用の開始を決定
- ・資金調達を実行し、財務基盤の安定化および成長戦略を遂行

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費+のれん償却費

損益計算書四半期推移

売上高は前四半期比で増加し、売上総利益も改善

販管費は高水準を維持するものの、売上総利益拡大により営業損失は縮小。収益構造の改善が着実に進展。

単位:百万円

	前期			当期	QonQ
	2Q	3Q	4Q	1Q	差異
売上高	219	247	214	321	+107
売上原価	203	200	177	248	+71
売上総利益	15	46	36	73	+37
販売費及び一般管理費	139	150	222	227	+5
営業利益	▲123	▲103	▲185	▲154	+31
営業外収益	1	2	1	0	▲1
営業外費用	36	28	87	15	▲72
経常利益	▲158	▲129	▲272	▲168	+104
特別利益	1	1	3	0	▲3
特別損失	-	102	-	36	36
税引前当期純利益	▲156	▲230	▲268	▲204	+64
法人税等	0	0	▲4	▲7	▲3
当期純利益	▲157	▲230	▲264	▲196	+68
EBITDA	▲122	▲100	▲181	▲152	+29

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費+のれん償却費

損益計算書四半期推移

売上高は前四半期比で増加し、売上総利益も改善

販管費は高水準を維持するものの、売上総利益拡大により営業損失は縮小。収益構造の改善が着実に進展。

単位: 百万円

	前期			当期	QonQ
	2Q	3Q	4Q	1Q	差異
売上高	219	247	214	321	+107
売上原価	203	200	177	248	+71
売上総利益	15	46	36	73	+37
販売費及び一般管理費	139	150	222	227	+5
営業利益	▲123	▲103	▲185	▲154	+31
営業外収益	1	2	1	0	▲1
営業外費用	36	28	87	15	▲72
経常利益	▲158	▲129	▲272	▲168	+104
特別利益	1	1	3	0	▲3
特別損失	-	102	-	36	36
税引前当期純利益	▲156	▲230	▲268	▲204	+64
法人税等	0	0	▲4	▲7	▲3
当期純利益	▲157	▲230	▲264	▲196	+68
EBITDA	▲122	▲100	▲181	▲149	+32

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費+のれん償却費

貸借対照表概要

転換社債の解消等により負債が大幅に減少し、自己資本比率は74.6%まで上昇。現預金は減少するものの、負債への依存度が低下し、財務の安定性の向上を図ることで、成長投資に耐えうる健全な財務基盤を目指す。

単位: 百万円

	2025年 9月期 4Q末	2026年 9月期 1Q末
流動資産	1,093	607
現金及び預金	919	367
売掛金	65	109
その他	108	129
固定資産	231	245
有形固定資産	19	18
無形固定資産	71	75
投資その他の資産	140	151
資産合計	1,325	853
自己資本比率	60.1%	74.6%

	2025年 9月期 4Q末	2026年 9月期 1Q末
流動負債	499	169
買掛金	38	77
転換社債型新株予約権付社債	356	—
その他	104	92
固定負債	21	20
長期借入金	19	18
その他	1	2
負債合計	520	190
資本金等	2,079	2,110
利益剰余金	▲1,285	▲1,478
新株予約権	7	26
その他	3	4
純資産等合計	804	662
負債・純資産等合計	1,325	853

貸借対照表概要

転換社債の解消等により負債が大幅に減少し、自己資本比率は74.5%まで上昇。現預金は減少するものの、負債への依存度が低下し、財務の安定性の向上を図ることで、成長投資に耐えうる健全な財務基盤を目指す。

単位: 百万円

	2025年 9月期 4Q末	2026年 9月期 1Q末
流動資産	1,093	603
現金及び預金	919	367
売掛金	65	109
その他	108	125
固定資産	231	245
有形固定資産	19	18
無形固定資産	71	75
投資その他の資産	140	151
資産合計	1,325	849
自己資本比率	60.1%	74.5%

	2025年 9月期 4Q末	2026年 9月期 1Q末
流動負債	499	169
買掛金	38	77
転換社債型新株予約権付社債	356	—
その他	104	92
固定負債	21	20
長期借入金	19	18
その他	1	2
負債合計	520	189
資本金等	2,079	2,110
利益剰余金	▲1,285	▲1,482
新株予約権	7	26
その他	3	4
純資産等合計	804	659
負債・純資産等合計	1,325	849